

河内名所圖會

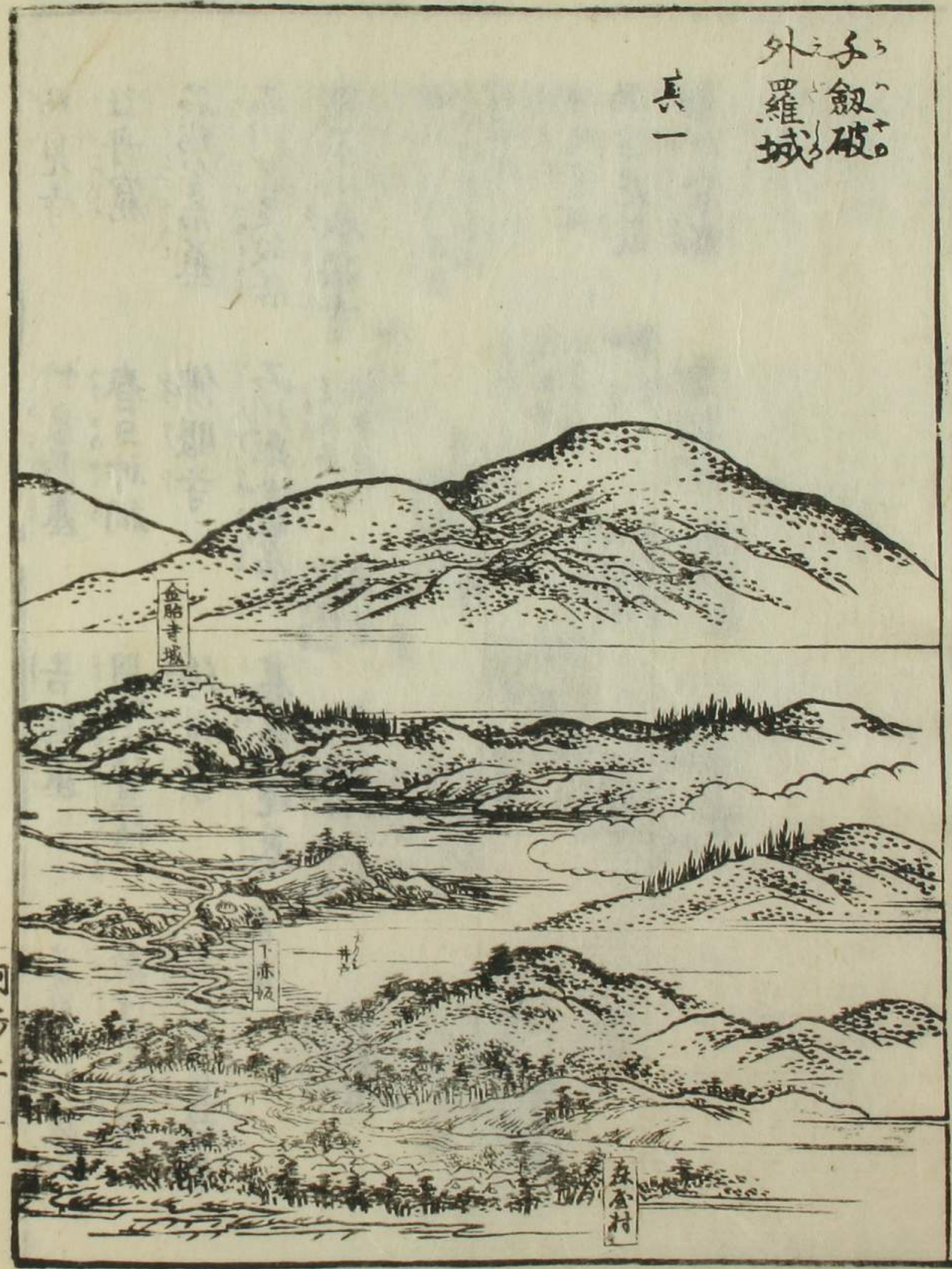
二

ル 4
4565
2

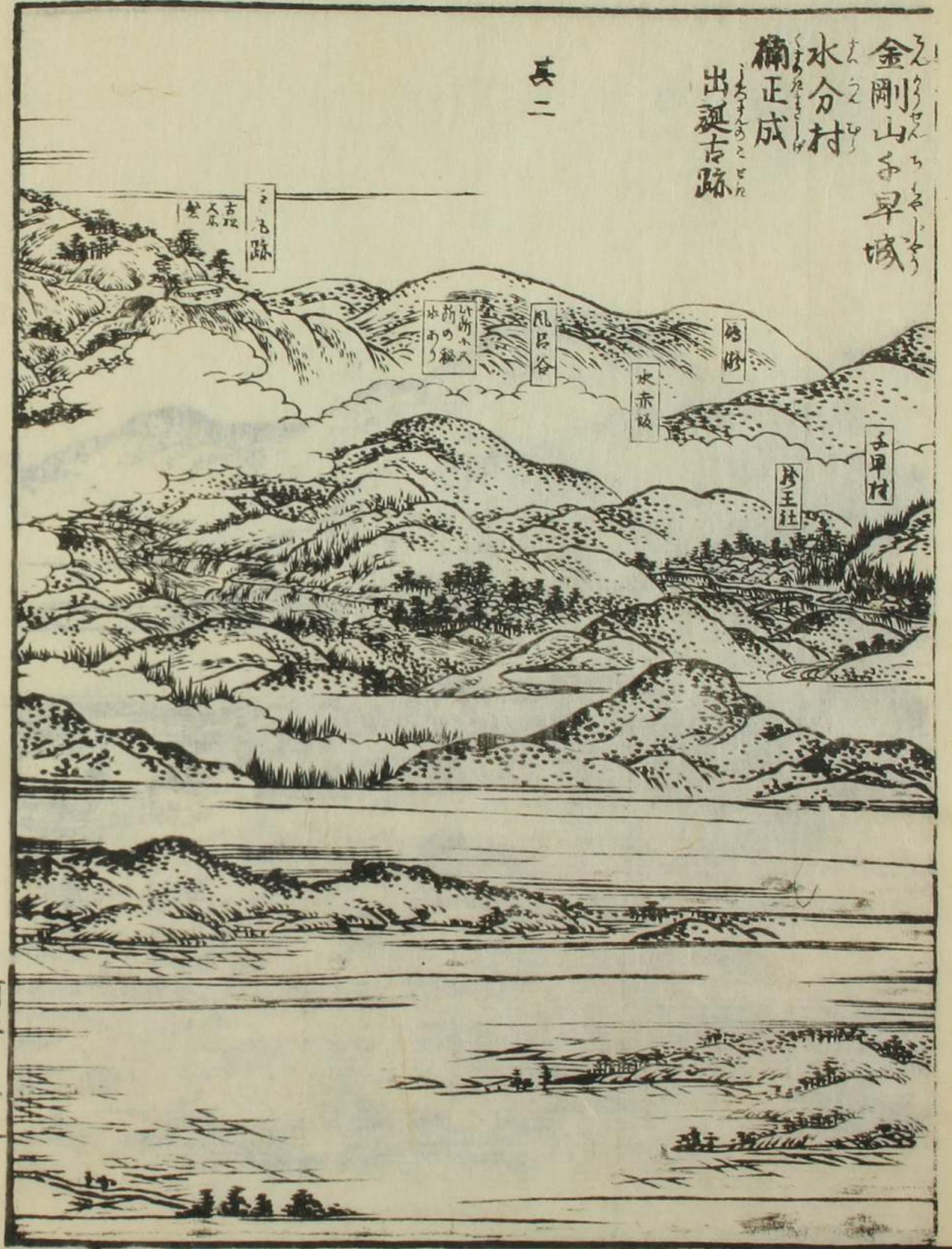




外子
羅城
破
真一



河二二



其二

金剛山子早城
水分村
浦正成
出雲古跡

河三三

石川郡 石川郡

東に和州に至り西に錦州郡の二郡に至る

北に安南郡の二郡に至る

石川郡の東南にありて和州に跨る山を道に敷居村より往く事四十所中

金剛山 石川郡の東南にありて和州に跨る山を道に敷居村より往く事四十所中

北にありて和州に跨る山を道に敷居村より往く事四十所中

蔵王権現俱利伽藍寺の役優婆塞の地也

長久の額系師遍照心院南谷の寺行者堂より自他長を優の鎮守也

二千所の神祀を存財と女祠と自堂附伽藍ありて四村坊減か十二

石塔等より新福石といふ黒石の形ありて石より東に西に河内と

常山加藤の圖といふ和名所圖會ありて坊舎のみを本園に属せしむる

長衣坊より寺坊朝原寺の二坊といふ和名之集者子堂に本堂より十八所あり

水多下る路傍にありて蔵王権現と古く號せり今も草堂とるは頂嶺也

大日嶽といふ本堂の北の方の圓見山坊中の西に新富の地ありて

和州岬一谷といふは和州の岬にありて和州の西にあり

某等の浦といふは和州の浦にありて和州の東にあり

東軍と直下見ありて書きて慶の計にありて和州の東にあり

左思蜀都賦に書くは北に比とん

子甲城址 金剛山の半腰 山嶽巖然として四面の溪谷を東に右に

南に八拾丈北に二十丈東南の間は一徑ありて坂崎とて金剛の山

其所中途に圓見山ありて弘中廷尉正成後所より四方は樓十七

其門之穿の蹟を一匹ありて古松の根を以て木とては葉を以て

本丸二丸の跡を礎石とて櫓のありて和州の割及び楠實録より

和州の割及び楠實録より

和州の割及び楠實録より

和州の割及び楠實録より

和州の割及び楠實録より

これより小栗後五所の秘水の跡は城址のまわりを流す昔守封一本葉煙を
其新幹を推す葉煙を崎嶇る路をめぐりぬ風呂谷の菟城の時
停水獲てぬるる水は流す所を東軍がけつて其の標成正成
策を相と新と後には住を火をとりて焚きぬるの軍を滅し其跡を
少の方より城の守護神八幡宮の祠今もまきや楠石塔を九の跡に築くあり五橋
あり南朝天授六年庚申正月吉原の所楠石塔を千氣破城の跡に築き且外軍卒の
病死又十一歳小光も勇武義勇大居士と号し其の遺骸を城址に葬す
城址跡躰龍城山の良嶼飛龍の南の方より共ふ高十餘丈樹の向は飛流
しく幽寂る地は子甲村ありお修者龍王を奉り生土神と例祭九月九日多門
寺の毘沙門天千甲の城門に鎮座す考都くは山城を築きしと邊國第一
の要涯に國買山の壘に補正季小根田城の要將監若山の堡に補正氏世國の五將
稻洛山の紫の藤嶺に希まみみか水の上ありて子甲の藩屏に備へ義兵備へ
城壘を築き成に諸葛亮の軍例を慕ひ胸に陣成貯り戦闘に備へしといふ
事か一人ひり功名一時の最もりて城址若爵とて晋乃羊祐と

隨渡の碑も異なるに

本不見山

東坂村あり赤坂村より二十八町上方に里談云ひて一畝も漏出し一畝
あり本比堂あり十一面觀音長尺八寸をす安に平等院に号す

赤坂城址

上赤坂村の上方金剛山の北麓ありけ古城の南方に山嶽
小麓に東南の方斷崖高サ二百尺北に一徑を通後延尉正成とて

備前國東八十萬騎の大軍圍攻す事數日之徒ども楠氏あり
し屈せぬ善策を惟幕の中よりて釣誘熱砂の岩石落し
計成とて軍を七と事數十萬騎並置の官兵利あり後赤坂
小建を援をかへ故に正成伴と自殺と見え城小火を焚て去り
遁去る其古跡今も然りとて一本戸甲取坂軍馬の窟と
防に一屏風家屋林出會といふ楠の老土に方より出合東軍
を引包く攻し新之王院の所新といふ主上とて車駕を
ゆぐるをりし所の仮所の新とて其馬場と土人いぬがごとく今



千早城

小字不登とくや味のひがふ山の井とく名実あり正成が隠し水と

る門く今不清玲めく備出ひう小登と度

小根田古城 二の系那村あり正成が計謀會く六條の系とく謀せしは

東條川 水瀬二流一の水成峠より水多と厚く水多漢といふ一と

唐榎測 水多村あり邊村都く十八ヶ村の生土神とい例系九月

建水分神社 水多村あり邊村都く十八ヶ村の生土神とい例系九月

南本洞 神社のたあり後醍醐帝勅みり門く正成乃靈成

馬場室觀者 定朝の御長尺をす御守りあり神社如藍觀々

龜井 湖伽井 信女あり

今二二箇ありとく名実ありとく

谷堂 神主の隣北あり

神宮寺 正成の祈念あり

水分壘 神宮寺太神ありとく

楠正成誕生所 田圃の中ふ大將軍細あり今村三間の旧跡を遺す

楠氏第趾 下赤坂城門の中ふ又切山村あり

寄塚 身方塚 俱ふ泰成村三昧新あり正成が死の者あり

大森七塚 泰成村の東あり信ふ白山神祠より入曆應五年の壬辰

先帝の勅位ありとく

佐備神社 佐備村あり延喜式出仕地を生土神とい上皇文曰内園石川

佐備漢 水原中津系小吹より出く龍泉依依とく

威古佐備神社 生土神とい



上水
分社

河二ノ八

森屋村

歌塚

味方塚



牛頭山龍泉寺醫王院

龍泉寺村あり
古義真言宗

本尊藥師佛

聖徳太子所化長も尺八寸
日月光十二神將と安ん

毘沙門天

本堂不安に龍泉寺城
守護の多るなり

鎮守咸古神社

整敷

今牛頭天王と社に本堂の邊あり延喜式出御
九月九日高村と耳南備村との生土村人

不動尊

本堂不安に弘法入降の他
長も尺八寸許

草駈天祠

本堂の邊の方
小なり

各財天祠

西の方池の中五鎮座に
祈願の付應驗あり

それけ寺ハ

推古天皇二年獲我馬子之臣初と受くまふ小餅字と嘗と久持る事
悪龍池中棲く人氏と悩及馬子神咒と誦く事一七テ日魚龍威験小怒れく

け地と飛去る

以時水個々事十餘町帝あり焼利と建く十二願主と築く
群類と利せんを以厥后次第み水極之護るる人あり堂々荒廢弘仁十四年

正月廿日弘法大師あり

小名加藍の菟蕪と嘆れ若女龍王と云ふ各財天と御法
龍化と埋く精舎瓜再宮あり於茲厚和帝初く正二位中納言冬緒に瓜

身仍く

勅願するもの自爾密風域内各廟へ再び宗儀繁榮に若女存まの

龍化と埋く

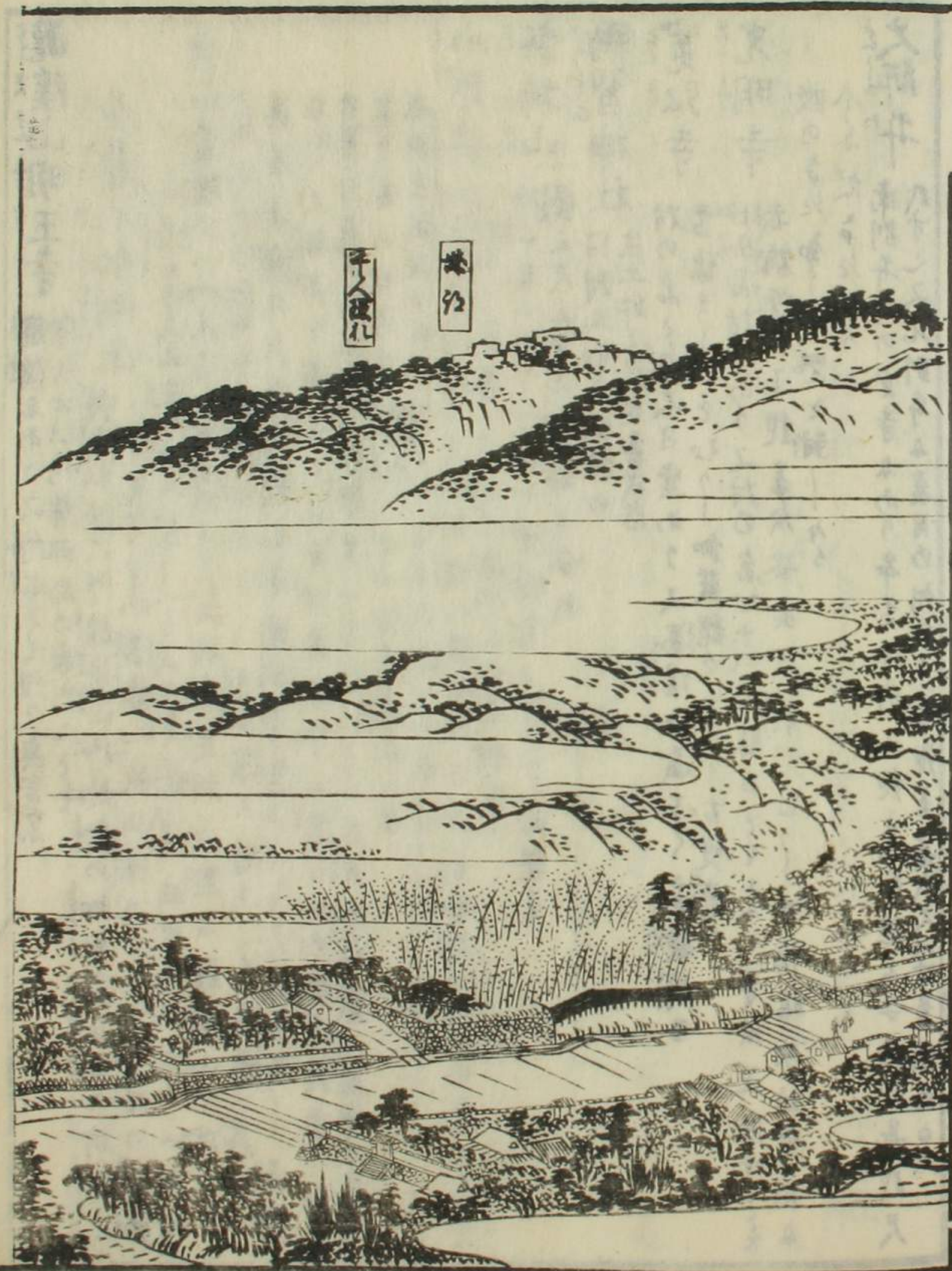
精舎瓜再宮あり於茲厚和帝初く正二位中納言冬緒に瓜

身仍く

勅願するもの自爾密風域内各廟へ再び宗儀繁榮に若女存まの

龍化と埋く

精舎瓜再宮あり於茲厚和帝初く正二位中納言冬緒に瓜



河三十一

龍溪山明王寺

龍溪山あり又竹谷と龍の真言宗

本尊不初明王

傳弘法大師龍泉山行の初國安の初縁と

堂壇といふまゝ延文のころに將軍足利義隆公龍泉山と攻め

其法應の凡畠山城守國政等遠山のやうにふ出張り長陣

の巻の奥に云々于時康應寺一季秋初九日於日所村嶺山西陣不初堂

水越嶺

源朝臣國政云々

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

庚子九月八日勅法

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

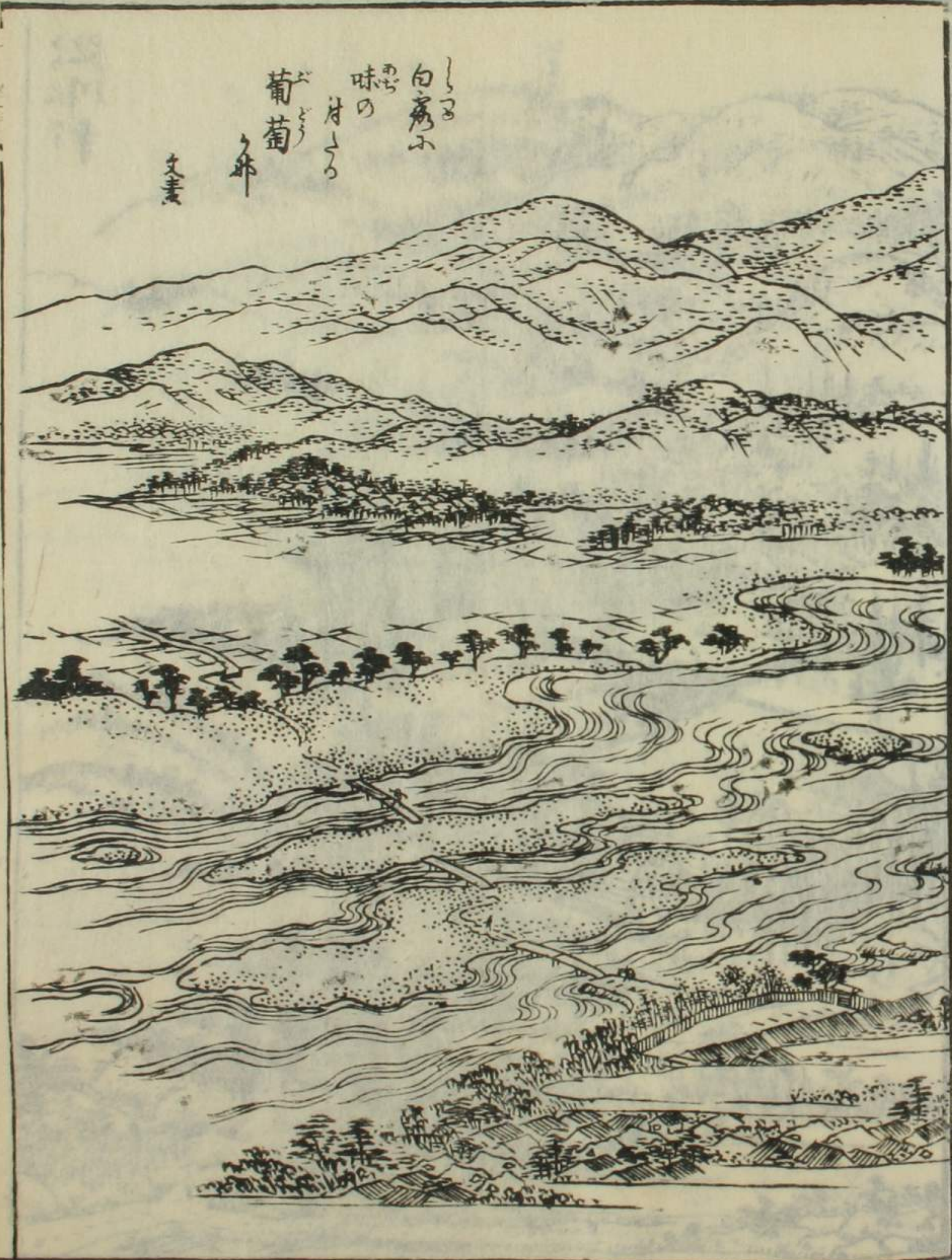
白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年

鎮守

白山権現慶長五年



白鳥の
 味の
 村の
 葡萄
 文書



富田村
 興正寺の
 地葡萄の
 名産

川石



西の堀
平の
花小
又入
あのか
蘇島

河二十四



弘川寺

龍池山弘川寺

弘川村小あり

本尊藥師佛

長式尺六寸

地蔵堂

本堂の傍にあり

大師堂

弘法大師自他の像を安んずる

鎮守

本堂の左にあり

西行堂

西行上人の遺像を安んずる

西行上人墳

本堂より西に所許あり、塚上にも石標あり、西行上人墓

規櫻

堂前小あり、楠堂隅屋と云ふ

河内弘川寺有白櫻大一圍許、花彩可愛、寺僧云是楠氏家、臣隅屋與市、舊壘之地也、嘗以此樹爲楯、自

畫其地、而誓曰、縱令我軍不利、不出此城、終戰、死、干

樹下、後人稱曰、規櫻、曰、賦一中、聞說南朝多義臣、就中隅子最超倫、只今祇有櫻樹、在長使行人、淚沾巾

五葉松

堂前小あり、大樹なり

龍池

花の池の傍にあり、早天小雨と

奥院

山より巽の方六七所あり、年久しく、荒廢し、礎石のみ

花之窟

加雲法師の位に刻し、新之一名、其處亭あり、樹の赤みあり、遊子所と云ふ

加雲墓

谷の窟山下

大黒石

山上五六町

又當山に寂莫なる山寺あり、鐘聲白雲を和し、清磬山翠を

度、清津人世あり、ざるの雲を籠り、るるあり、上人もあま

任中、風あり、た葉の窟あり、りも縁覺をもち、かか、かり

るるあり、積り、ひい、山亭も空しく、あるの風、北戸を穿た、山後

新く、小圃、紙と剪、魂を招くの人、もか、一、拵、け、寺と

又智帝四年、役小角、二十二葉の付、け、地、初、く、一字、成、草、創、し

業師の畫像と云ふと、又、文武帝の時、龍池、小、初、雨、あり

久し、必、驗、あり、於是、勅、願、寺、と、さ、り、く、金、堂、講、堂、寶、塔、鐘、樓

教、箇、の、子、院、を、さ、り、り、且、五、ツ、の、畫、泉、山、奥、小、あり、一、ハ、極、溜、水

二、ハ、隠、水、三、ハ、之、文、多、四、ハ、赤、龍、水、五、ハ、白、龍、水、と、號、聖、武、帝

圓位聖歌と判まひたり一具年ハ文信ノ内ノ弘川と云ふ寺あり
類ノ事ありと云々多だつたり一より一かたりありと云々
きく後二月十六日又南西に傳れたり云々
かの上人先きの中一不極の奇多く傳れたり云々
おかしくはたのりやうく云々先ん其のききたるのを月の夜
遊ふおの月終りてけり云々云々不有かかおはく云々云々

生旅云

長秋の節藤原不庭弘川寺とあり云々據て云々加吉法師弘川一極
弘川一極と云々山傍に傳れたり初の如くあり云々云々
室しくして傳れたり云々弘川寺より十二三計あり云々
そく古た家あり自前傳せんと云々先ん立仰り本堂より二町半あり
一堆の中よりあり云々弘川寺ありと云々弘川寺ありと云々
おかしくはたのりやうく云々先ん其のききたるのを月の夜
遊ふおの月終りてけり云々云々不有かかおはく云々云々

望龍

弘川の竹谷ふあり一流の漢川高八尺許の飛石と云々藤原
弘川一極と云々山傍に傳れたり初の如くあり云々云々
室しくして傳れたり云々弘川寺より十二三計あり云々
そく古た家あり自前傳せんと云々先ん立仰り本堂より二町半あり
一堆の中よりあり云々弘川寺ありと云々弘川寺ありと云々
おかしくはたのりやうく云々先ん其のききたるのを月の夜
遊ふおの月終りてけり云々云々不有かかおはく云々云々

降蓮寺

桐原村ふあり見初ふと云々真言宗
本寺大日如来の役り者の傳りあり
開基弘法大師原住し
吾成寺の燈燭堂あり

福林院

日村ふあり真言宗本寺毘沙門天の長六尺傳云々

御幸石

持原の小平石村のふあり相傳つむり後寺院弘川の幸
の付り官の古跡と云々云々六尺許の巖あり一方鏡のりり
村民さるる云々云々

寶海寺

新堂村ふあり本寺十一面觀世音安ん休の池
長も尺に寸あり

栗が池

日村ふありむり 聖武帝御時
喜志村ふあり 慶和九年

和爾池

日本紀云 仁徳天皇十三年冬十月造和爾池築横野堤

美之具留御玉神社

喜志村和爾池の西ふあり一名和爾神社今下水
神社と云々 例祭六月十五日十一月十六日 道村

櫻井

六箇村の生土村人 嘉祥
三月十二月授從五位上

白本觀音

白本村ふあり十一面文悲菩薩
長も尺あり

加納法華堂

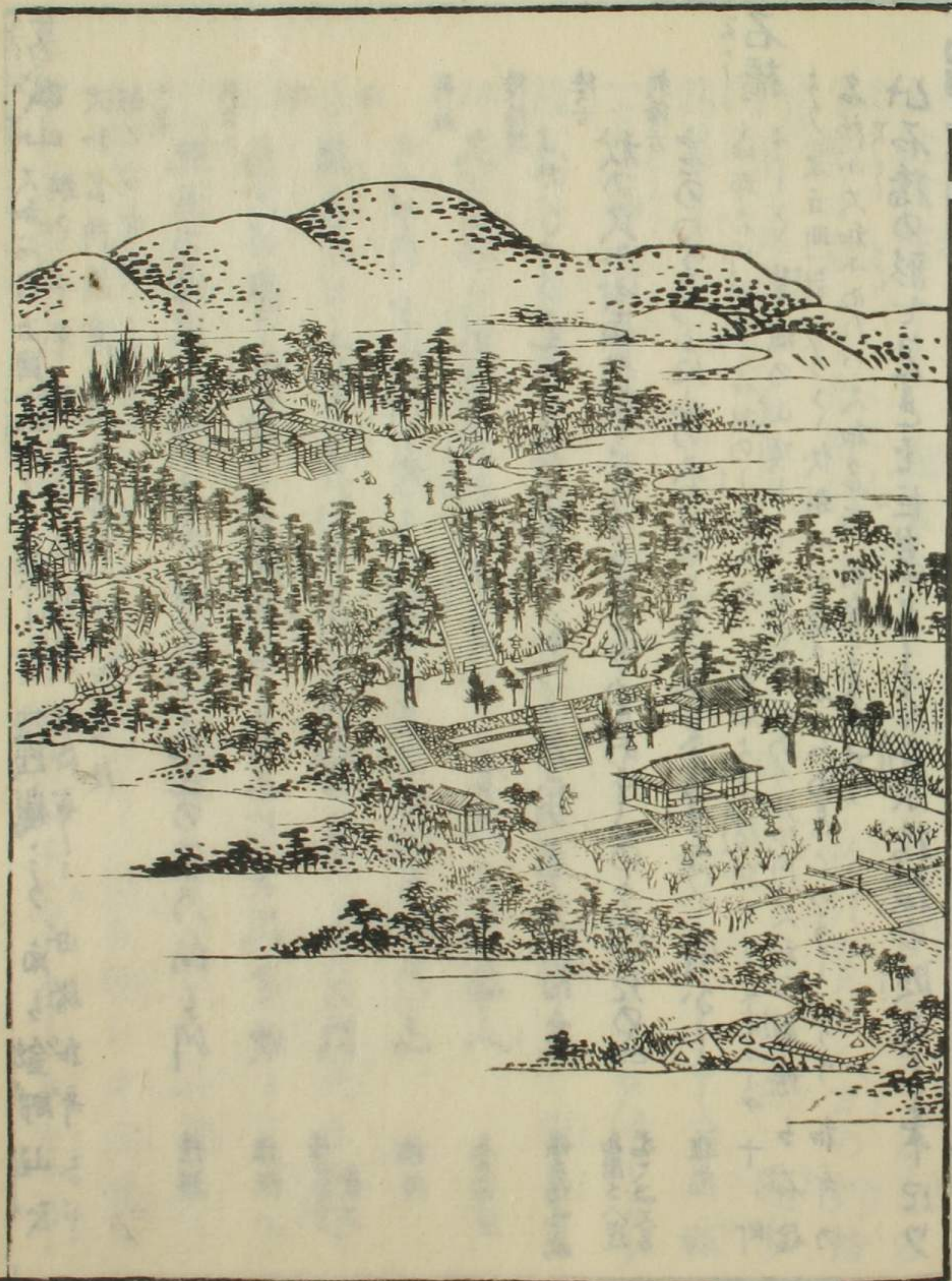
加納一村日蓮宗門人
後徳の聲あり

加納地藏堂

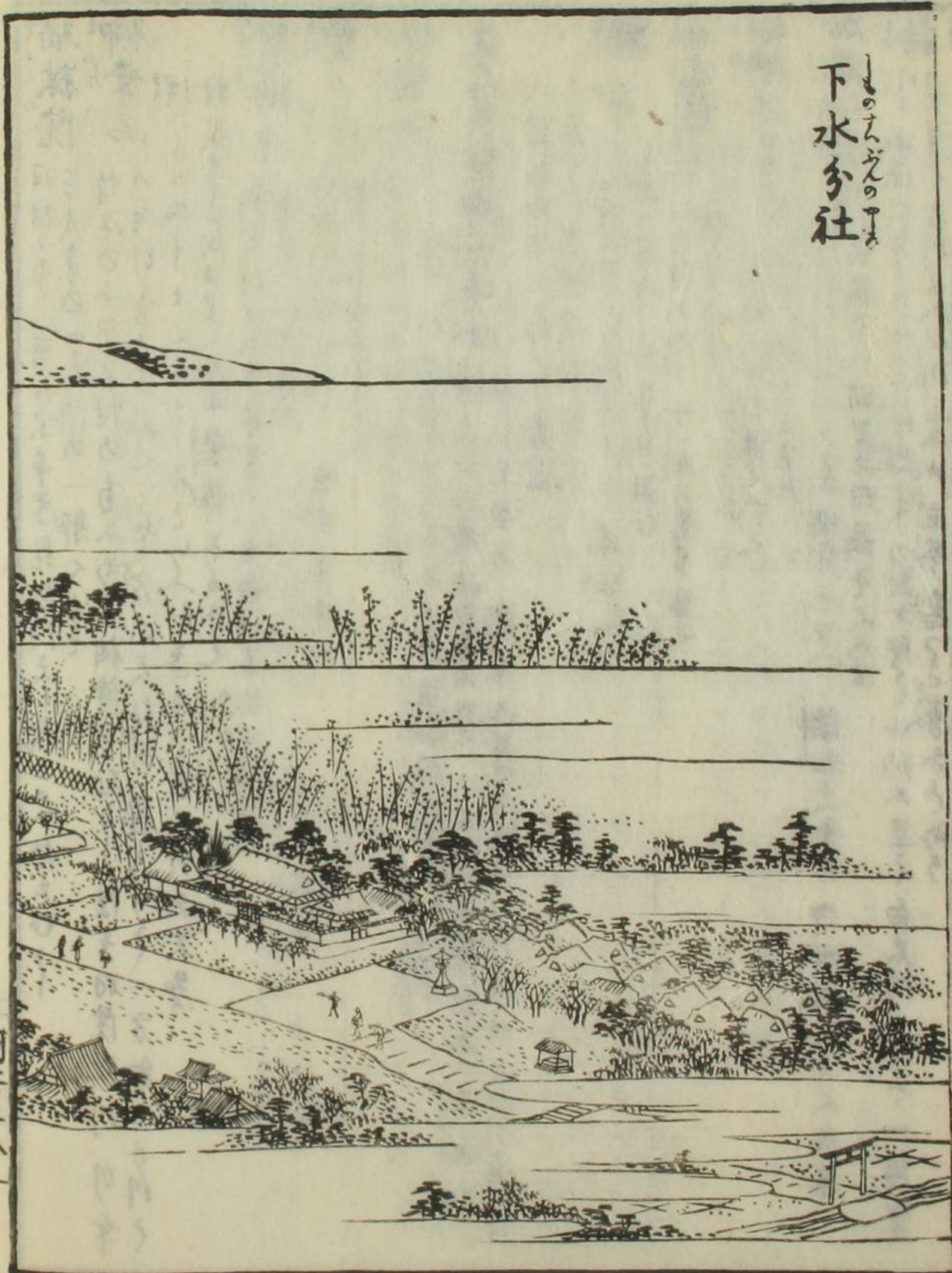
南加納村ふあり東福寺と云々
地蔵堂あり

梅川

水原竹谷より出く河内上下の村を經く加納に至く白本川と云々一須賀
石川入は川上ふ戸立界あり



河二ノ十八



しんごの
下水分社

葛城山

大和の内志國にありて、麓に竹田、嶺に南金剛山あり。千早峠ありて、戀野あり。由緒和弁ふせ。

照月の旅跡の床や志のゆらぐたの谷乃河三川

白雲の級まふかひく青柳のうらたふにま風を吹

飛をほせふかきよるわやうのまきこの木さりの風

うらりのまふ風のまきと教うまのかわらた乃山

うらたやまのまきと白ひまてまうひらた乃文を梅ふ

よせふらうまをそ思ふまううかたの岑乃白雲

秋のまふけるぬねまかうらまをま本あまのうらたの山

まのわらうらたのま月るまのまままかき時か

石橋

此郡石川郡平石村の上方にありて、石より築路を東に築る。十町あり。東五町計ありて、伏城峠を隔る。名所ふ大和ふあれは、大和名所圖會にも出せり。

石橋の形をまきを巨巖ありて、面小橋板の腹あふ車にツ

あつ精隆うらう欄檻みぬら幅三尺餘長八尺許、南の

方些一缺うり形勢將小南峰に遠んと欲に實ふ人力の到は

所小ありて、傳云むら後優婆塞葛城の峰より金御嶽へ通ひ

路んとく石橋をうけんとはまき諸の神ふ令トゆら葛城

一言主神容貌いと醜けれ、晝の役そまかきかきまひらう

橋なつて得るに行者いうらう一言主神を兜縛し深谷に

押籠置たまふ云

此を橋小よりをうり出は堂の形

あかけややうふ赤石多し石不初石橋の上五間許あり

鋒立石も高サ式をうり其形をうり名とく石橋より山下

四町小あり、鶴釜岩式も小形をうり名とせられも石橋より

西の方五町小あり、胎内潜も巨巖左右より頭を傾け中間虚ふ

しく人まれとく小身を縮め通は故名小ふ大岩子

河二ノ十九

かゝりく其外赤岩多し地勢揚きくち小金剛山の巔近く
又之東に大和の毗火山三輪杜纏向の檜原之香久山など遠く見え
つら西の方へ海内の國中揚陽の村邑難波江珍勢海もみち
浦の初岩芦登里鳴尾寄洲の浦まぐ鮮みく風色いち
ぢるく一國の揚系さるる

春夏遊人
左近

いそ橋のよるれ契りも級ぬくしゆり佳しうつたの神
かひたやくめち小波と岩橋の中くても帰るぬり
葛塚や赤やれ光の橋つらりゆり佳いおなをそあり

いそりり若しおと葛塚のくめちれ橋の中れ多きま
かひたやくめち小波と岩橋の中くても帰るぬり

葛塚の神そかひく波とらんよるくしゆり佳いうた橋
うつたの神さるる

うつたの神さるる

うつたの神さるる

うつたの神さるる

磐船神祠

葛城山の山中小あり平石持尾の生土神祠例系六月
廿二日九月七日旧事紀日饒速日尊神作祖の
十種之神寶と授りて磐船神祠と遷坐しゆり
神下山と神籬と榊祠と榊くた右小榊社あり八幡宮あり
山神能宮あり志山の榊尾流の榊社とあり糸糸大和比
多見丘と三輪の榊外山村の東上と方小あり
大和名所圖會より委く出せり
磐船 社頭の前く小足しゆり船の形小似く艦艦ありと凹あり
浪石 社頭の前を所計小あり石頂小浪の

海上岩

又日本紀小神武天皇戊午三月丁卯朔丙子遷流而上極
至河内國草香邑志雲白肩之津云云後れを海上の文云
よれり又志雲小文志云く大和國志見見遷座をそくみみ
國の南みく志見丘の三輪寄の南外山村の東とくは所城上
郡之河内志の岩船石のひく大和の海下郡あり
凡五里とありも遠るる

岩橋

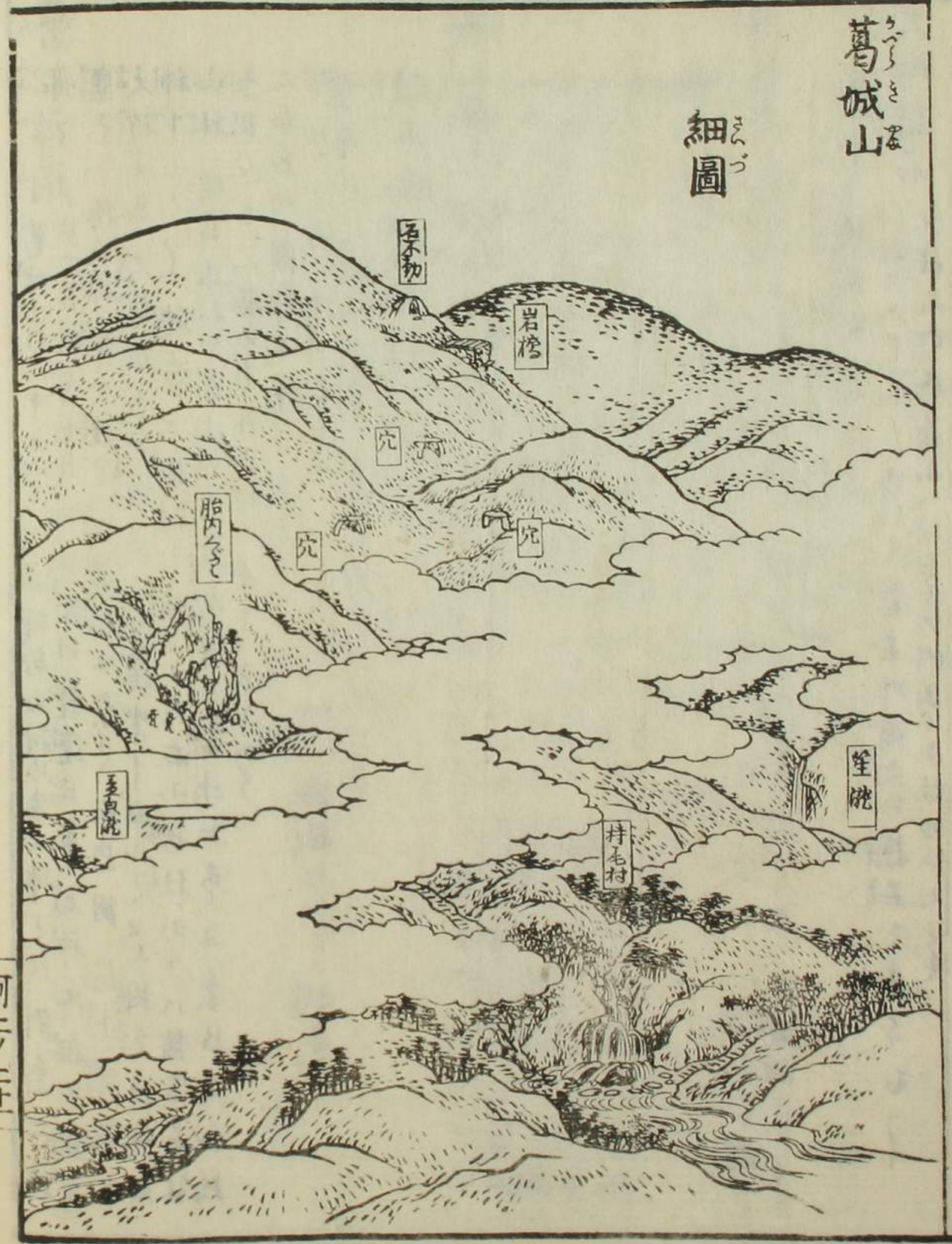
平石村小あり傳云むり聖徳太子橋の盛ありは枝とゆ
よるり近年高貴寺の志雲比丘
書しゆり標石を建せり

大師總石

日村の入口小ありこれれ志雲作偈文の標石と建せり
弘法大師作墓山ゆきりの時あり休ありと云

葛城山

細圖



河二二

子灰
刀々々
花
徒々々
并の顔
ととと

葛城雪擁
寒日微々行雁
間千尋雪擁
葛城山朝来倘
過孤溪上有客
扁舟訪友還
生駒散人





岩内

河二ノ二五



葛城岩橋圖

其の石れ
 岩橋
 のけ
 塘雨





高貴寺

門

此後ハ...

...

平石吉壇

...

平石

...

河二ノ二十五

神下山高貴寺

平石村あり、宗有真言律門、是より女人結聚あり、坊舎四宇、弘法大師の塔婆と安に

金堂

本尊五丈尊各長四尺、講堂、弘法大師の塔婆と安に

獨鈷水

大井、獨鈷水あり、加持し、忽ち泉

埋まると木葉の下に湧く、水あられの末に人物あり、弘法大師

後羽院塔

金堂の右あり、十二巻の、多羽院後僧正塔、日新小

大師堂

奥院と称し、弘法大師三十二丈自他の、寶藏院、大師堂の

多門院

大師堂の左あり、戒壇塔、奥院の下、龍池、金堂より、奥院の向に

忽應驗

鎮守、叢船明神、神躰

五彩丹楓

名木、紅葉の趣を、蜀嶺、小川、遠近の、騷人、七町斗

賞

...

此れ神下山、役優婆塞、茶創、ゆい香、其旧跡、尚山、七町斗

大師三十二丈の、付山、中、入、安居、其旧跡、尚山、七町斗

藏心止五福石塔婆あり又家臣の母谷小あり平石祖
廟ハ城跡あり子傳真興誕生の碑あり又南照殿と
古跡あり南朝後村上院の御宮とあり又平石の
家跡ハ今の解野
七白石と領どと

吾成寺古蹟

平石村地藏院親善堂等ハ坊舎あり今現存
安次弘法大師の御長三尺下之堂の本尊ハ十一面觀音
長三尺許の像とありこれみか吾成寺の古件なり
吾成寺ハ暖帳天皇御宇弘仁年中弘法大師の御
より山頂より光明結ぶる靈地とあり本尊ハ
弘長三年丙午の二月加藍造建の功終りて
吾成寺と号後其寶珠ハ上之堂指の御心藏心
初亂の時後醍醐天皇護良親王の御心藏心
本寺記ありとあり寺平石村直心村あり
御心藏心法成徳とあり丹誠とあり北軍平石
四方より火氣かけしとあり終の御心藏心
建諸堂の旧跡ありとあり終の御心藏心
後羽院の勅額あり吾成寺の御心藏心
弘法大師の御心藏心不初多題の荒神の御心藏心
金の般若心經大師持の五結自筆の御心藏心
金起の御心藏心覺饒上人書あり

の理趣経あり之國傳本金剛の觀者又昔の塔中の本考阿弥
陀佛 後醍醐帝御念持佛の觀世音ありこれハ光明皇后
の御心藏心 蓋尊ハ其外蓋宝多し

今地藏院ハ藏心

持當寺ハ榮久ノ類廢シ佛堂の址田中ノ字とあり古碑ハ剝落シて全ク
礎石所ハ石とあり其厚ク滿地ハ落石とあり其傍の吟石ハ潮地蔵院

の存あり本村極々名木あり建之一年十月十二日 後羽上皇御心藏心

美門定憲ハ隨身ニ本村ありとあり寺記あり

村南あり岡加井ハ大師之結宇とあり穿穴溜とあり涌出次故也之結水とあり
稻荷平頭天皇天滿神とあり此地ハ風乘絶妙とあり遠近暇下小遮ハ藏王推現ハ下之

堂あり又眞福寺の眞實傍都も小隠也又行基菩薩の和合を賜ハ麻福田丸也

あふ程ハ車けさの舊記也とあり

安川井

平石村小あり原安川院の加跡とあり弘法大師の御心藏心
威得の井あり今字とあり安川とあり

大師水

細村小あり一井あり大師腰掛石 旧村の入口小あり弘法大師の御心藏心
止り懸ありとあり

燈明橋

旧村あり大師安居の御心藏心 対峙橋あり光の御心藏心
より後多く建つとあり眞言と聽聞ハとあり

阿闍梨真興碑
 凡人之所以競功利，張聲譽，煇赫於一世，斯須
 變遷，終皈窳落之墟，者比比皆然。是吾道所以
 察乎缺減，而其盛位，祿並連割，據壯鉅，又為善成
 今衰也。方其盛位，祿並連割，據壯鉅，又為善成
 寺大檀越，我弘法大師，所開覺，鉅上人，所經，營
 沒常善成寺，弘法大師，所開覺，鉅上人，所經，營
 山名寶珠，鬱為一方靈場，而與平岩城，相隣，乃
 有若上綱法師，自其家出焉。師名真興，字洞輝，四
 年甲午正月朔，誕師于平岩之城。十有二，剝染，十
 六，受戒，初從興福，仲算，究法，遂吉野，仁賀，傳真言
 寺，蒙荒神，之靈，示受密法，遂吉野，仁賀，傳真言
 之，秘決，顯密，兼綜，為一代，翹楚，頂登，阿闍梨，位
 一條，天皇，不豫，勅，師，修，法，有，大，驗，因，賜，弘，法，大，師，將
 來，兩，部，大，曼，陀，羅，二，幅，並，大，般，若，經，六，百，卷，長
 保，五，年，任，維，摩，講，師，位，寬，弘，元，年，甲，辰，正，月，十
 權，小，僧，都，奉，勅，修，會，講，師，上，生，都，率
 月，十，四，日，示，寂，年，七，十，有，一，師，嘗，有，誓，詞，日，不
 內，院，今，子，島，有，名，天，上，劫，海，利，益，衆，生，子，島，在
 生，不，滅，不，離，此，土，未，來，劫，海，利，益，衆，生，子，島，在



平岩寺
 河二ノ九



六谷
十二重塔
佛徳梵字
多



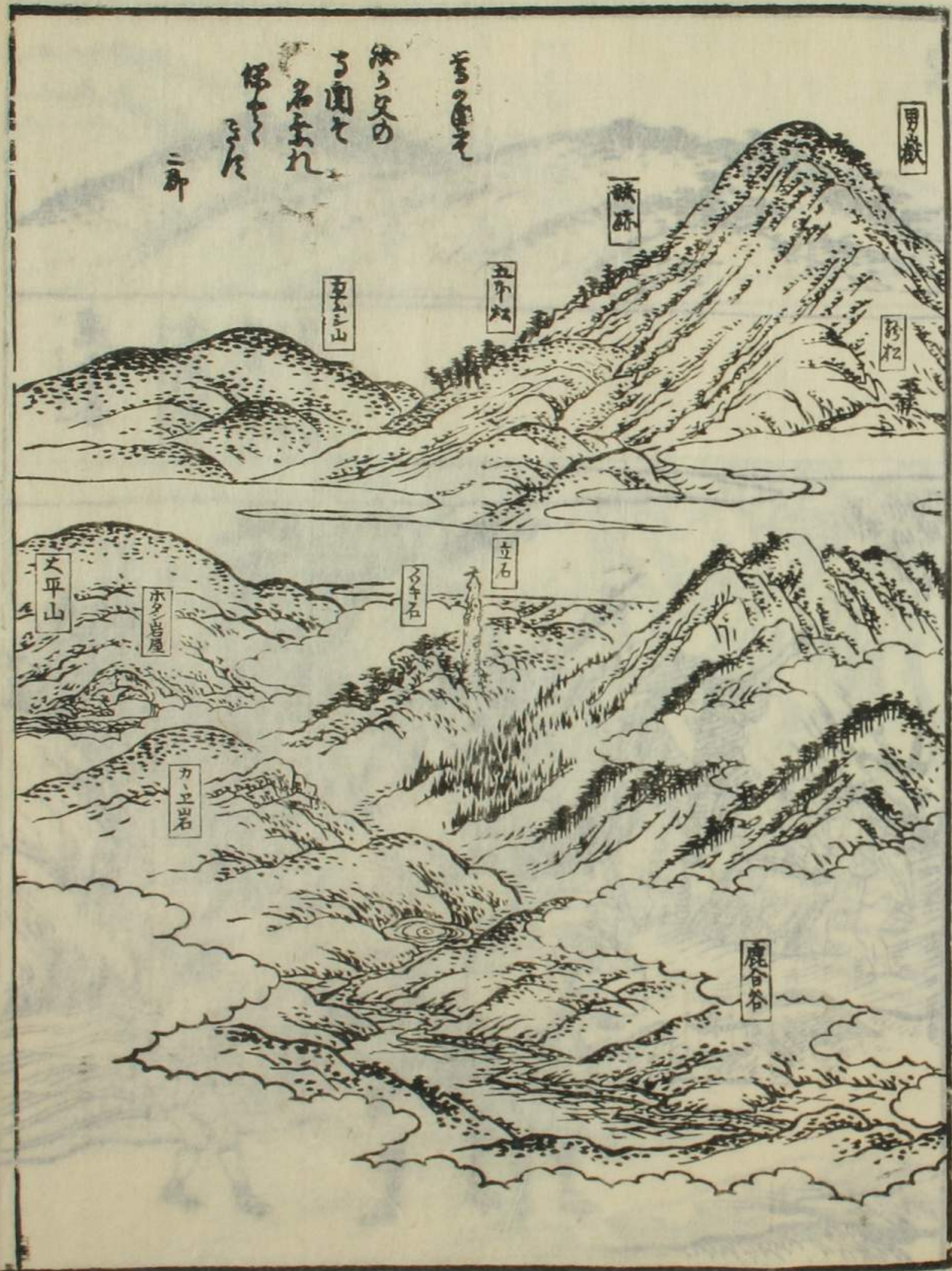
河六



二上嶽
岩窟



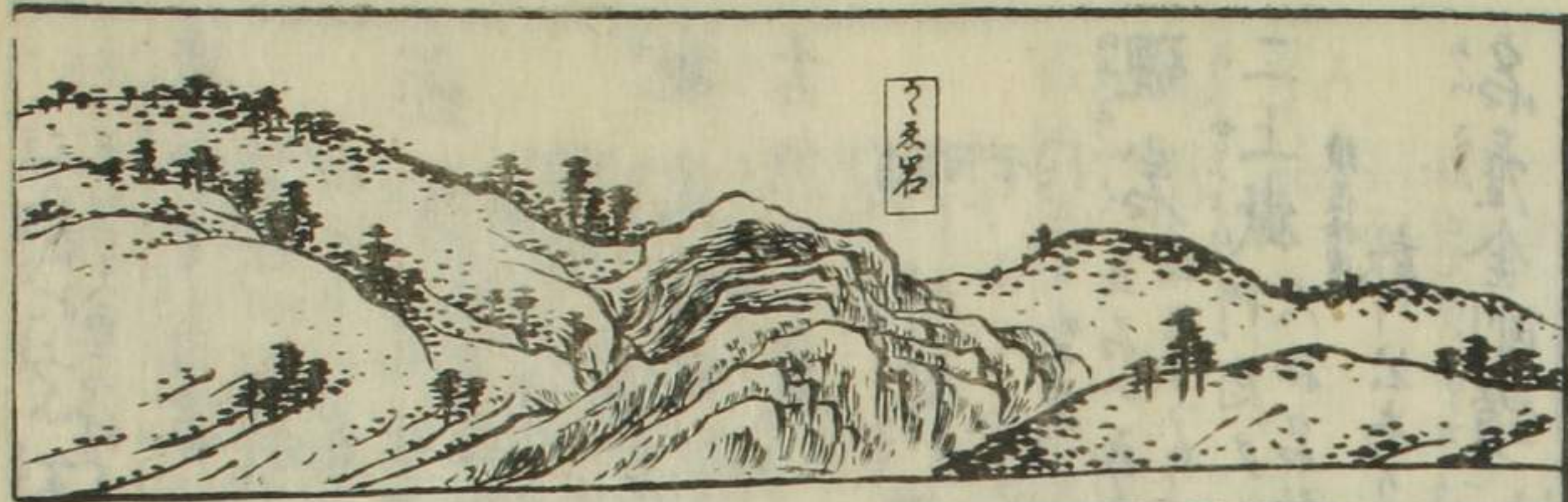
河二ノ尻



男嶽
 五平山
 立石
 鹿合谷
 文平山
 二子山



二子山
 二丈月井
 岩屋
 鹿合谷
 山田



石屋

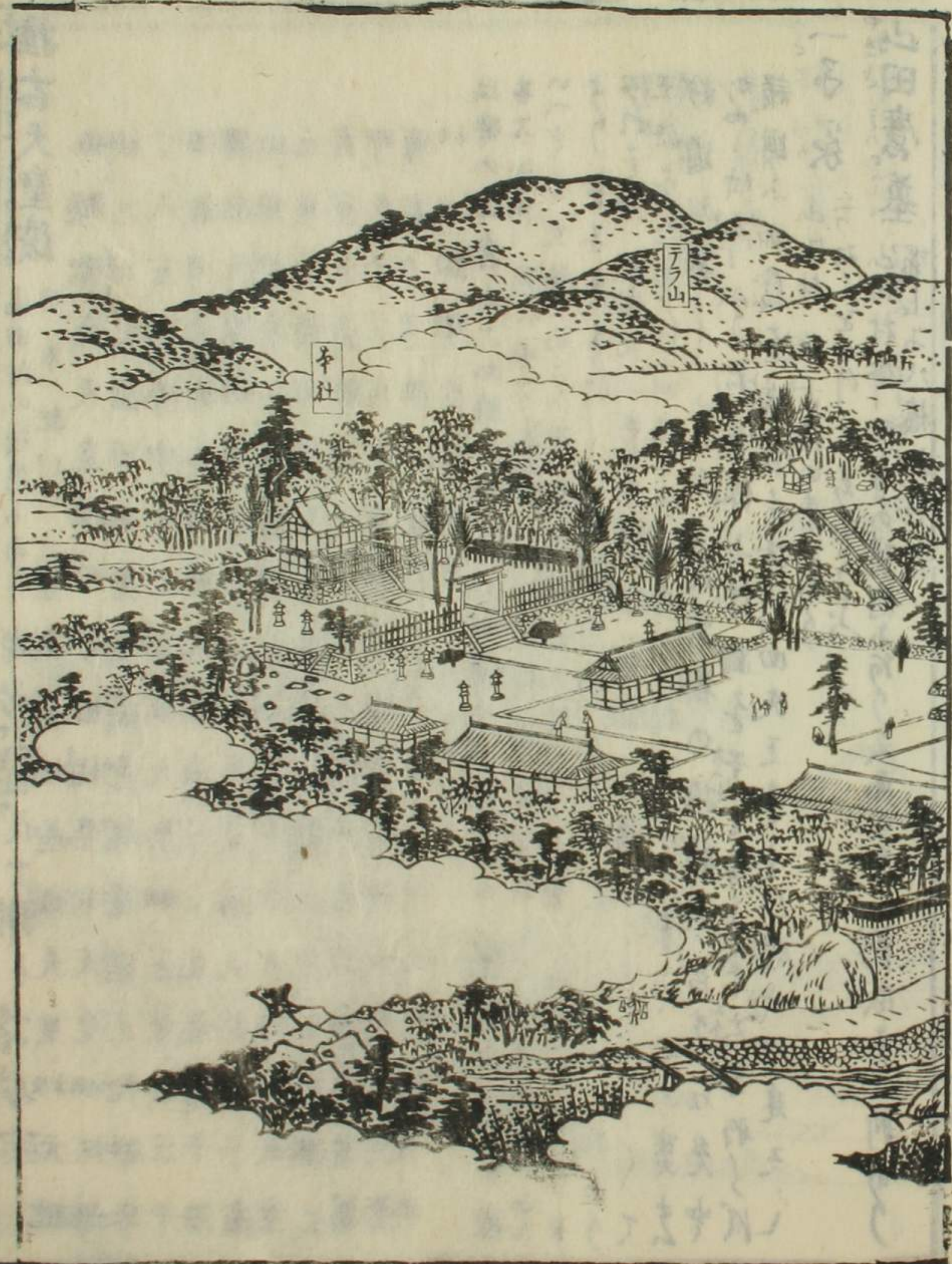


鹿合谷
 金剛嶺
 山溪川
 箕子

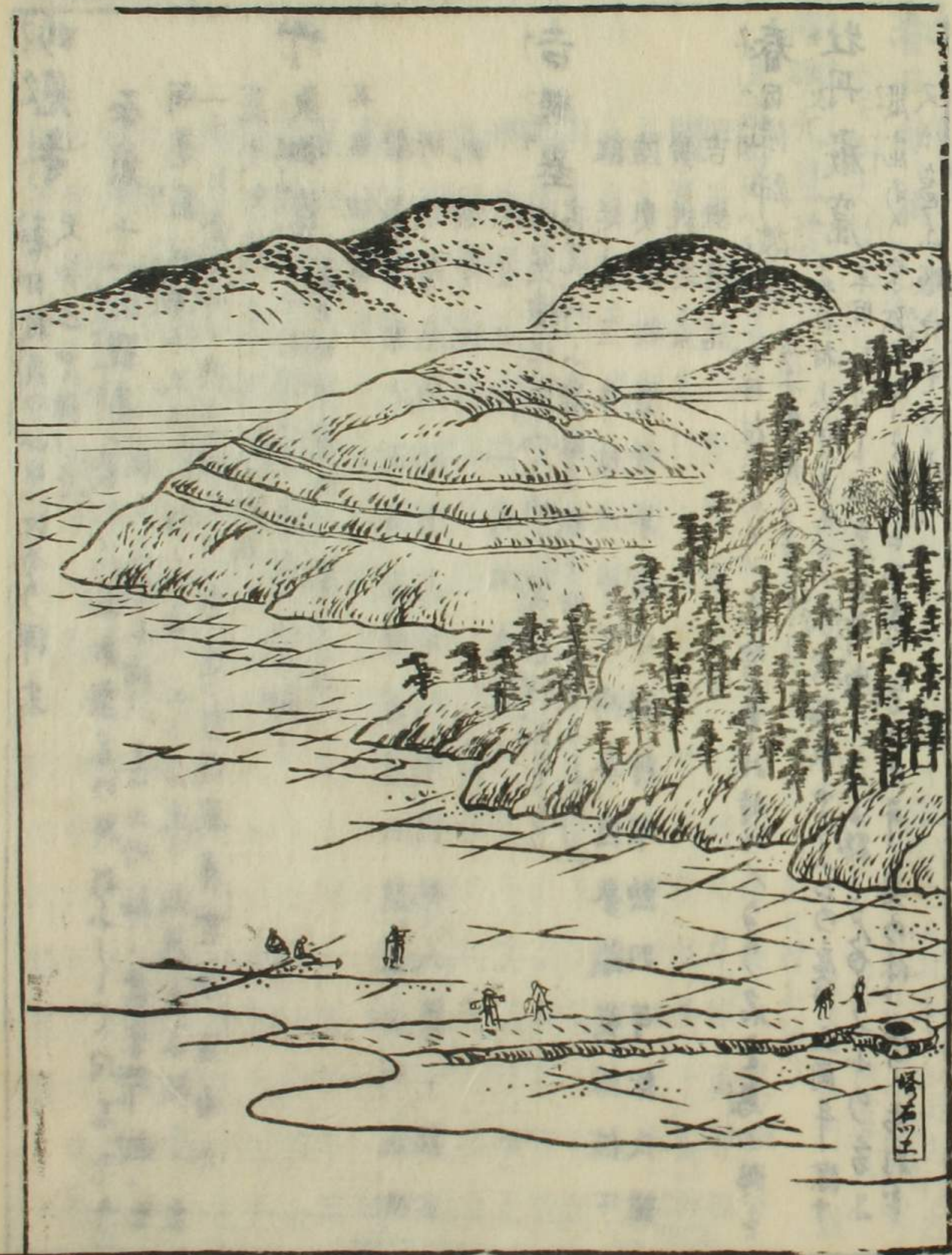


雨水

河二九四



科長神社
八精水



柔室
 山田
 孝德帝陵
 用明帝陵
 推古帝陵
 敏達帝陵
 上宮太子所廟



河二ノ川

妙見寺

野村良の山中にあり禪宗
天白山中野

平尊十一面觀音

長六尺初御觀音の権形にして日本あり
服士天照を神 去日妙神 當寺碑 面云

開基蘇我馬子大兄

推古二十二年四月五日
二十日薨 中興蘇我田氏末裔 尊星院殿喜雲 筆悅居士

竹良卿墓

山田村領内所原山あり碑あり
其墓碑云

飛鳥潭原

所請造墓所形浦山地四千代他人莫上敦木
祀穢傍地

吉繼墓

妙見寺の後山あり字繁白山あり
古瓦一斤ふ墓誌を鑄て妙見寺あり

維延曆三年歲次甲子朔癸酉參議從四位下
陸奧國按察使兼鎮守副將軍勳四等紀氏謹

春日佛師故居

春日村小あり天智帝此時の人なり名を鳥と稱す
世小佛師あり

牡丹嚴窟

春日村山中あり字松原あり
又此窟あり字松原あり

春日神祠

春日村小あり此所の生土神なり
言并ま支技繁れり

用明天皇陵

石川郡磯長中尾小墓あり今石川春日村あり
日本紀云 橋豐日天皇 天明天皇 排開廣庭天皇 敏第

九七丈六 大斯連之夏麻村女皇 皇機 四正為 四子也 橋豐日天皇 天明天皇 排開廣庭天皇 敏第
月月六佛連車矣詔臣月之廣子名四行豐御食廐穴守屋連宮以蘇我馬子宿禰
改華佛像及睨寺大怒引何而詔群臣曰香手曰皇孫我子世居東宮是
橘馨余侍菩薩是也悲慟今家脩道又物不臣勝等
豐日池天上皇陵明於河內磯長陵元秋
皇陵明於河內磯長陵元秋

敏達天皇陵

日本紀云 淳中倉太珠敷天皇 敏達天皇 淳中倉太珠敷天皇 敏達天皇 淳中倉太珠敷天皇

皇弟二子也母日石 皇弟二子也母日石 皇弟二子也母日石 皇弟二子也母日石

石姫皇后墓

敏達天皇の皇后 敏達天皇の皇后 敏達天皇の皇后

佛眼寺

真言宗西園順元祖の寺なり

五卒松

植玉あり

寺の周基佛眼上人の常小支眼より金色の光を其の 寺の周基佛眼上人の常小支眼より金色の光を其の

河

侍る少く 侍る少く 侍る少く

申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

十善の玉 十善の玉 十善の玉 十善の玉 十善の玉 十善の玉

靈場へ 靈場へ 靈場へ 靈場へ 靈場へ 靈場へ

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

侍る 侍る 侍る 侍る 侍る 侍る 侍る 侍る 侍る 侍る

海老塚 海老塚 海老塚 海老塚 海老塚 海老塚

石川年足居 石川年足居 石川年足居 石川年足居 石川年足居

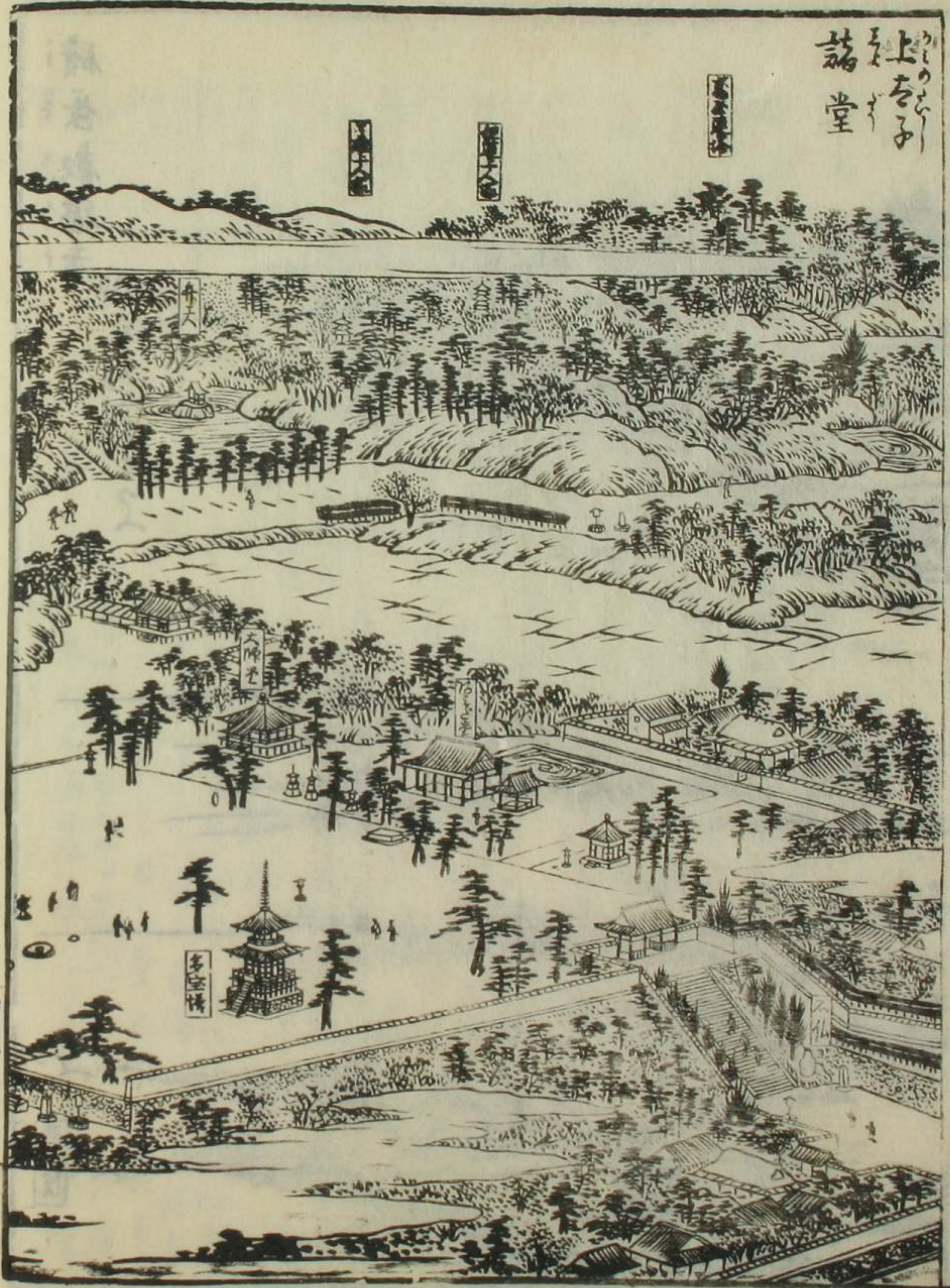
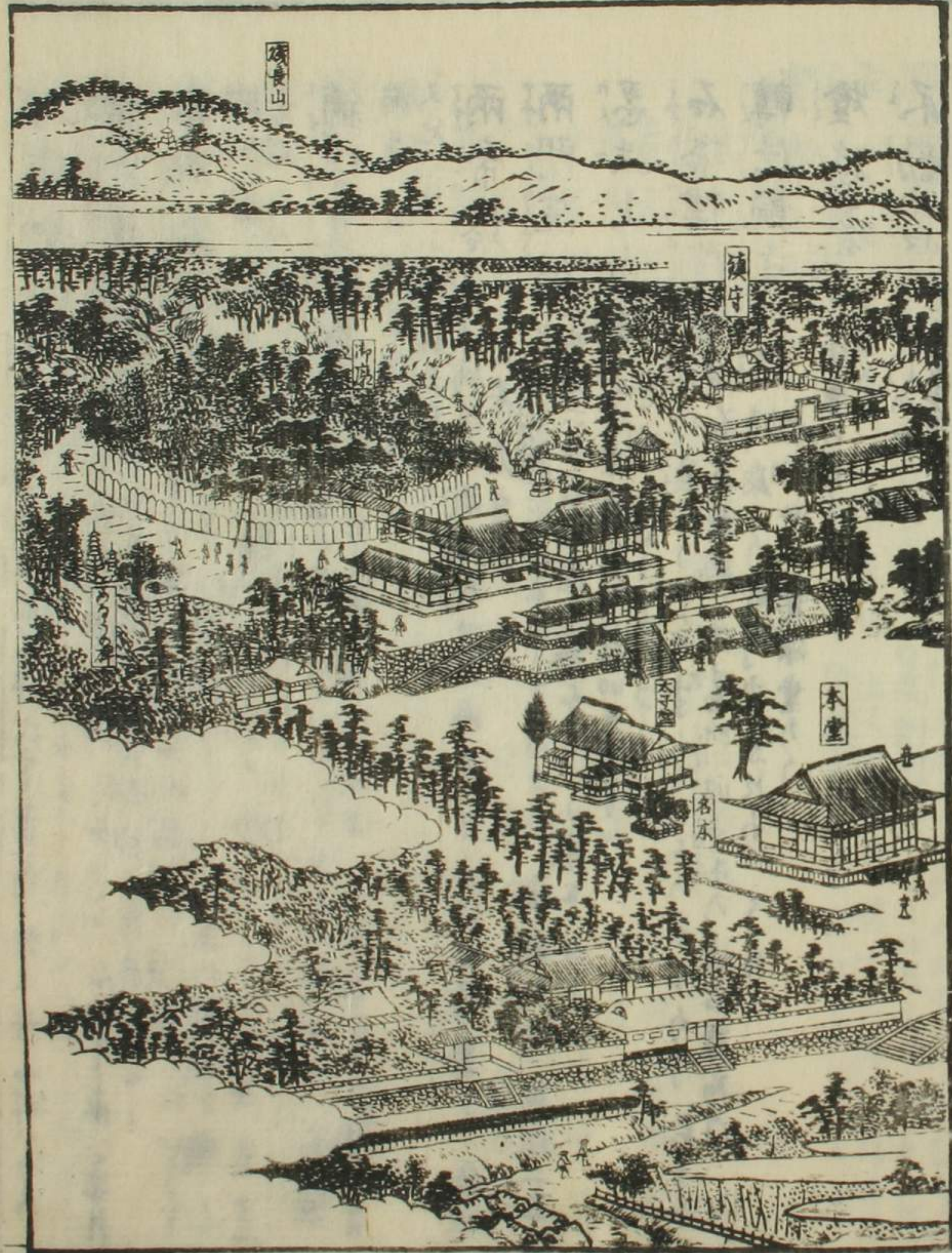
授了 授了 授了 授了 授了 授了 授了 授了 授了 授了

石川名足居 石川名足居 石川名足居 石川名足居 石川名足居

石川郎女居 石川郎女居 石川郎女居 石川郎女居 石川郎女居

高屋連墓 高屋連墓 高屋連墓 高屋連墓 高屋連墓

故正六位上常陸國大目高屋連牧人之墓 故正六位上常陸國大目高屋連牧人之墓



大師堂 全堂の東にあり弘法大師六十歳所創と云ふ

常光院 旧所あり念佛堂也其の傍に豊原寺あり

普門石 金堂の西にあり高僧の修験者の修験の所なり

鎮守九所権現 清廟の東にあり中央熊野辨財天巖堂

兩帝塔 後醍醐院後深州院の兩帝法華經孤書寫しあり

兩門院塔 希大宮院正應五年十一月九日 遊義門院使治二年

忍性上人塔 此の東にあり大坂四天王寺に

石塔律院廢跡 右之將頼朝之清基所造ふ石塔あり

轉法輪寺跡 清廟より武町寺東にあり

燈燵基石 金堂の東にあり

不動石 二王門のト 東の方あり

河二ノ四

碣碑

出現所清廟城の右十間許ふあり此所の土中に碣あり

吾為利生 出彼衡山入此日城降伏守屋之邪

見終顯一佛法威德於處處造立四十六箇之碑

藍比度一千三百餘僧尼制記法華勝鬘維摩

等大乘義疏斷惡修善之道漸以滿足矣

今年輯次河内國石川郡磯長里有一勝地

足稱美故焚墓所已畢吾入滅以後及四百三

十餘歲此記文出現哉爾時國王大臣發起寺

塔願求佛法耳

觀上人石塔 清廟の東にあり

中門古礎 二王門の内中間にあり

關伽弁 二王門の下にあり清廟の傍にあり

彌夜堂 二王門のトにあり石佛大日尊

絶藥院跡 左子村の西にあり

市場舊跡 右子村市場跡あり

神功傳の巻子の
カースル

五字ヶ嶽 奥に見えり由縁

夫志山の弟創志 推古天皇六年皇太子廿七歳の秋甲斐國

司秦川勝よりなりし驃駒御し調使丸を人を送者し

日本の靈山精舎筑てくをめぐり左子清祿教

三子と出ふあふとほれの黒駒小乘乃を今世と云れ

中川不二峯より初く吾妻の國をめぐり北陸道よりを振後の國

神原浦迄居りし時海を此を舟とて一舟の秋を鶴ゆり

上流の代小波をまきあふとめぐりぬるのい水たるのみ

あつとそれより秋浦よりせや三日の間小日本六十六箇國二島里を

二子七百二十人の教を男子十九億九万四千五百廿二人女子を二十五億

九万四千八百二十人男女合々四億五億八万八千九百九十九人あり

伽藍創建の勝地をえり人の言ふは清墓所を定老人が高二百から

西の別小大和の岡平宮小還御し終りけ紀行記著し 天皇よ上りし

これを雲上紀せりしとやい時富士峯にく跡を止老眼と云はしゆり

畿内河内のみ野丹五色の瑞光天子輝り今も五字峯に標あり實に

過去七佛持法輪の砌天下の勝地なり皇太子驃駒より下り終りし所を

今に駒岩村やいし厥后 推古帝廿七年清墓に築れ同廿八年よ

母后とてふ尊を終り其雲龍の轡をけりしと樟の大樹や成り今

大乗本やうし同廿九年二月左子班鳩宮ありて妃と共小薨りし

邊に二尸もあふ藏せり三骨一廟三尊位を舞れ東に清文帝

用明天皇の陵あり其良し 孝徳帝異日 推古帝坤下 敏達帝等

の廟後巖をくりこれ瓜寺僧難く梅花五陵やい其外大居士人の

丘墓多しは清墓山に建させりし時詔して守戸の僧坊十宇方

六町の地を宛りし其後七堂伽藍を建営し若干の寺庵と

寄り寺に福徳寺也歸一 推古事より 後宇多院まじく

四十代の事代々隆幸の車駕に先づり役優婆塞も晋門石を

三々行法練修し弘法大師も一日の奉籠ありて結界石を建らし

奇石の碑銘焉の靈文頼朝塔政子墳良親願蓮二師の墓不動石

開伽弁を其外名蹟より實に高藤の借惠慈が上宮を子乃

薨御を聞くと大い悲しむ大日本國に聖人あり上宮豊聡耳

皇子の編美と向もみか宏徳の顯然と居その也

當山付寶

安樂行品一卷 推古事代隆幸筆 南無佛御影一軀

普門品一卷 用明帝所撰筆 高麗笛一管 在子汗石持

大穴笛一管 用明帝所撰筆 建文三年七月廿八日所撰筆

心經 弘法大師筆 碼碯之記文 金銅十二面觀音 弘法作

坐像彌陀 安門師作 金銅不動尊 弘法作 金銅多門天 在子汗石

大黒天 傳筆所撰 天竺佛揚柳觀音 用子汗石 七宝花者

唐佛金銅如意輪 獅子の意香あり 金銅愛深明王 大師作

馬郎婦觀音 碼碯をめて刻成を婦人の衣を草敷天右を馬引

虎の鬚を小兒が安ん 弥陀佛一軀 鳥の作 釋迦誕生佛 四月八日

能作生王 弘法大師 坐像弥陀 昆首瑞磨 金銅不動尊 弘法作

大乘本太子 孝養の 南無佛御影二軀 伎樂面同樂器

七寶念珠 佛舍利一粒 欽明帝 佛舍利二粒 推古事

佛舍利四粒 若の塔乃真柱より出現凡建曆九年四月二十三日

午王 金堂より制年二月天下 名月王 明王

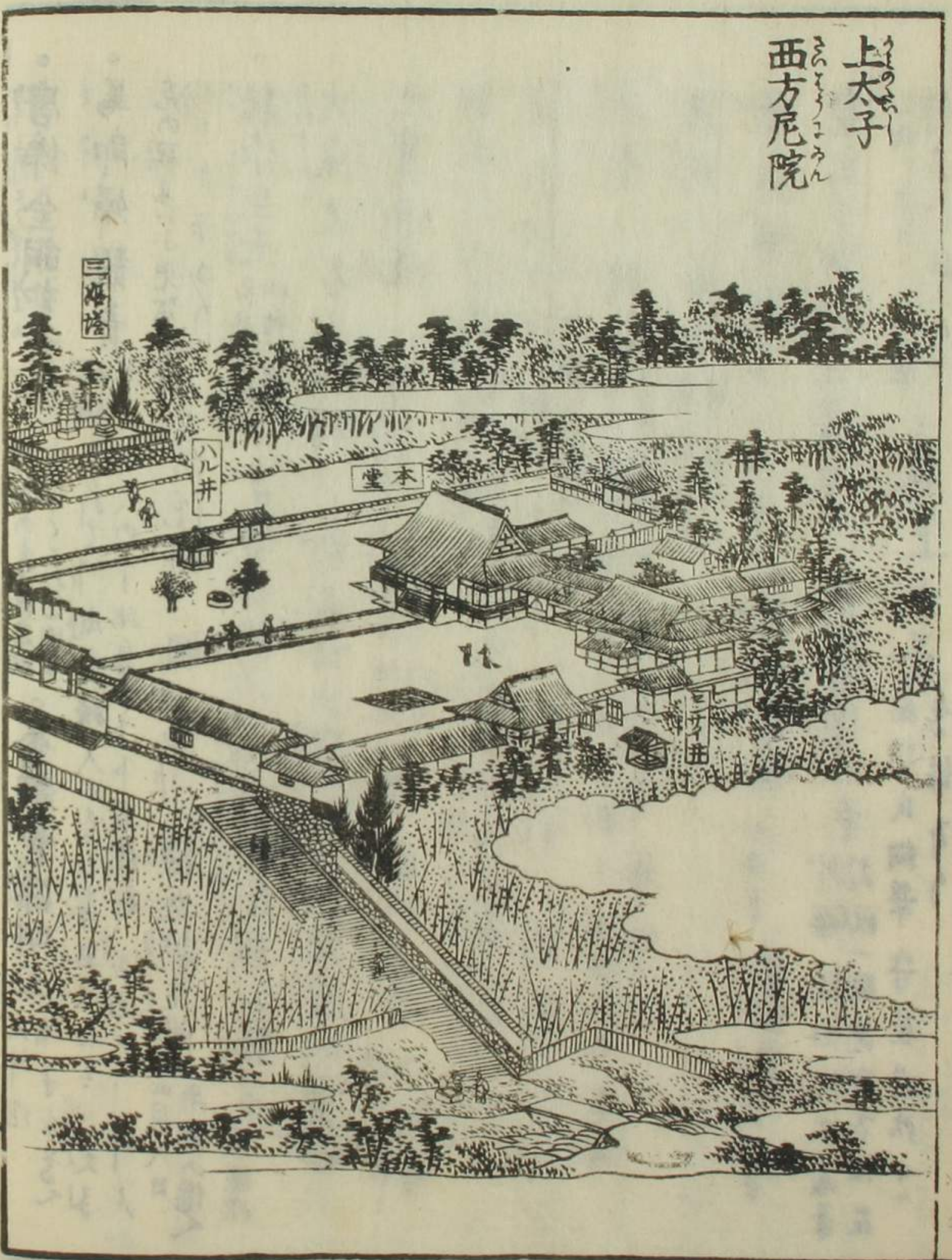
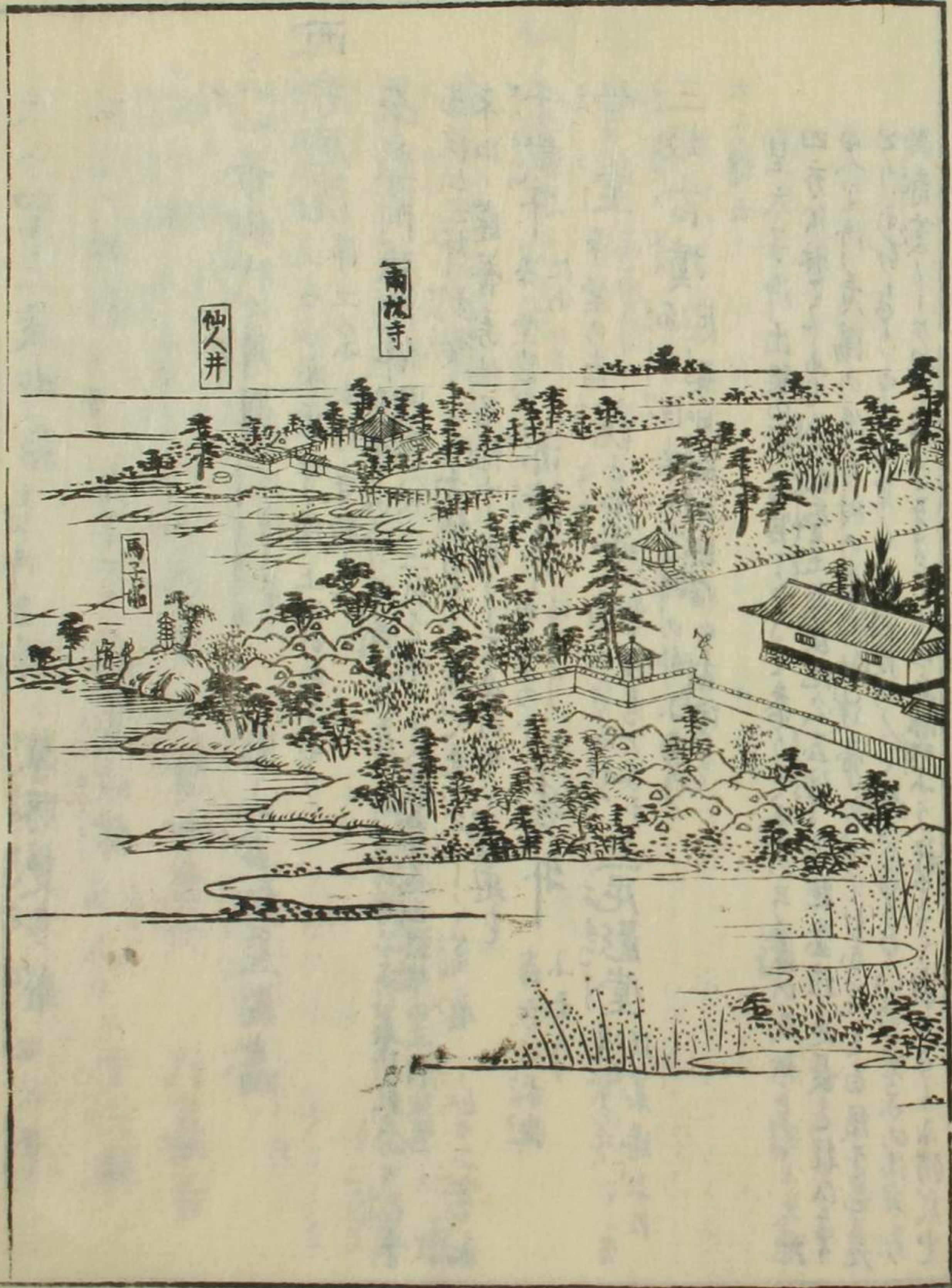
法華八軸 一品宮内親王常子清等外題を 後西院所撰筆

尊勝多羅尼 聖實上人 南無佛像 太子御筆 二臂如意輪 金剛筆 不動尊 弘法筆

皇太子繪傳 土佐時益筆 太子繪傳三卷 外題 後水尾中庵筆

公卿方五十人の筆 馬上太子 紐門氏細筆 守屋退治

別名別紙に在り



上太子
西方尼院

河ニノ四十八

太子四十二歳御影 太子清自筆 尊勝曼多羅 弘法筆

弘法大師影 自筆 太子四十二歳攝政像 撰我臣 十二佛

三千佛 佛名會奉る 涅槃像 六臂如意輪 代々論旨

帝御代々尊輝 青蓮尊純 法親王筆 當山古伽藍圖畫

西方尼院 上太子敷福寺南上段の地あり

奉尊阿弥陀佛 聖徳王の清化長三尺五寸辨方の方太子二歳清純の方尊筆

千載井 奉堂のあり 赤染井 腎堂の下 雲井 南寺の赤染

骨堂 奉堂の南 親老堂 南の方あり 二尾影堂 奉堂の北の方あり

三姫古墳 西の方院南の方院の外あり 皇太子傳云

皇太子清出謎の時百官てくを奉りて葉の弓蓮の夫成之の天地四方放射して今御聖王天長地久玉体安穩宝非延長と祝ひ奉り

いづり容秘愛麗の女を搦んて清めのくを奉りて百人の天の中より三人えくのく出づ天女玉女の如く威々れを光の徳ふより其名を月益姫日益姫玉照姫とて太子清のめめと不定の中月益姫と申す今年十七歳歳裁大臣の心を免あり日益姫と生年十八歳と申す

奉る阿弥陀佛 坐像三尺五寸脇土親老地蔵像ふ

毘沙門天 坐像三尺五寸弘法大師撰攝政像の付磯長靈廟へ一夏

仙人窟 境内あり 方一丈五尺いかに仙人窟南林寺の所あり

甘露樹一株 自裁あり 上皇御宮の時

天造石像之黒天 五彩五輪塔塔婆 厨子小入表麻十六羅漢八祖

脊ノ雁ノ如ク春荒神多門天吉祥天女

北斗七星九曜星極細画極典司の筆之中に五色の佛舍利
佛舍利之聖徳を子和列法恐るるなりこみ極くやりの
舍利塔一基後水尾法皇法皇宸影松丘寺宮先子肉親王の丹まなり
法皇宸影箱の表懸の葉室家の子書
法皇宸影和哥一幅

夕方の夜子こしりみりぬき書好のふふ海老のうじ

皇太子二十五歳紙沖自筆月十六歳沖紙越子と書

是非教授ありとふ書

河内名所圖會卷之貳

